

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

(宮古・大槌・釜石・障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

夏休みも終わり、子どもたちは夏休みの楽しかったキャンプの思い出を宝ものとして、元気に学校生活をはじめています。それぞれのベースでも夏ならではの行事をいろいろ工夫して行いました。今回は、それをご紹介します。

岩手県にあるカリタスの4つのベース、大槌ベース、宮古ベース、大船渡ベース、釜石ベースは、「夏休み子どもキャンプ」を実施いたしました。カリタス釜石では、「夏祭り！納涼大会」を地域の方々と一緒に行いました。米川ベースは、ベース内の広場で地域の方々と交流を目的に「夕涼みバーベキュー」を行いました。石巻ベースは、ベースのある末広町の「第4回末広町復興祭」が行われました。石巻ベースのスタッフは、会場設営に、フランクフルトや焼きそば作り、そしてお祭りのイベントのお手伝いと、八面六臂の大活躍でした。

岩手県4ベース合同「夏休み子どもキャンプ」

カリタス大槌ベース 西館 さつき

太陽照りつける今年の夏、大槌から子どもと保護者の計21名を連れ、岩手県住田町にある“種山高原 星座の森”へ8月4日～5日、1泊2日のキャンプへ行った。

大槌チームは復幸きらり商店街に集合し、釜石「道の駅」で釜石グループと合流。車4台で約2時間の道のりを走る。車内はこれからのキャンプにはしゃぐ子どもたちの笑い声で大騒ぎだった。

種山高原内にある遊林ランドで昼食をとり、午後から岡山県より先生をお迎えしてのキャンドル作り体験。湯煎させてサザエの殻に流し込んだり、手の熱で変形する蝋で思い思いのキャンドルを作っていた。高原に移動し、コテージとテントのグループに分かれて荷物を置き、子どもたちは自由時間。高原を走り回ったり、大人が夕飯の準備をしているのを見て手伝ってくれたり、思い思いに楽しんでいた。中には一般の利用者のお子さんと遊んでいる子もいた。

夕食のバーベキューでは、お肉と三陸ホタテなどの浜焼きという豪華版。スイカも食べて、みんな満腹、大満足。大槌から一緒に参加した柴犬のポップも、すっかり皆のアイドル犬となり、子どもたちにお肉を焼いてもらっていた。その後、男の子たちはスイカの種飛ばしを始めて遊び始めたが、その姿を見て、「昔、私も子どものときにしていたなあ」と懐かしく感じた。

キャンプファイヤーでは火の神さま役が不在だったため、火の妖精の子どもたちが3つの火を点火。キャンプファイヤーの周囲で、歌を歌ったり花火もしたが、一番盛り上がったのは“子どもたちによる出し物”！即席で集まったグループにも関わらず、各グループで歌・宝探し・ダンス、お芝居など盛りだくさんだった。中には空手の形を披露してくれた子もいた。

最後は子どもたち全員で“ようかい体操第2”を踊り、大盛り上がり。これにはリーダーである私たちも予想外で、見ていて大笑した。子どもたちはパワーに溢れているのだと実感した。



全身を使っの岩のぼり

時間があっという間に過ぎてしまい、その後の入浴がドタバタになったが、それをも楽しんでしまう子どもたちに驚かされるばかりだった。

翌朝は早朝から昆虫散策！朝の高原の空気は土の匂い、朝霧の匂いに包まれて、大きく息を吸い込むと体の中が浄化されたような清々しい気持ちになった。

さて肝心の昆虫はというと、1匹もいなかった！カブトムシなどを期待していたが、残念な結果に終わった。

それでも子どもたちは木に登ったり、高原を走り回ったり、昨日の疲れを全く感じさせないほど元気いっぱい。その元気・スタミナを大人にも分けて欲しいと思うくらいだ。

朝食も済ませ、午前は山散歩！この日も快晴で熱中症に注意しながら高原内の遊歩道を、森林インストラクターからのクイズも交えながら散策した。途中、大きな一枚岩があり、子どもたちが登り出した時は、ああ私も子どものころはこうやって遊び場を自分で見つけていたなあと懐かしく感じた。コテージから約2時間で遊林ランドに到着した。途中リタイヤした子もいたが、なかなか外で遊びにくくなっている町に住んでいる子どもたちにとって、貴重な時間だったと感じた。



インストラクターの話を興味深く聞く子どもたち

昼食はスタッフがカレーを用意してくれていた。あんなに疲れていたはずだが、食べ終わるとまた皆外で走り回っていた。全ての片づけが終わりお別れの時、初対面だった子どもたちはすっかりお友達になり、「また来年会おうね！」と言っていた。その言葉を聞いて、今回開催して本当によかったと感じた。



火の妖精となった子どもたち

「夏祭り！納涼大会」

NPO 法人カリタス釜石 千葉 絵利子

お盆期間最中の8月15日、カリタス釜石では地域住民の手による納涼大会が開かれました。

実はこのお祭り、震災から5年目を迎えたこの夏、只越虎舞（ただこし とらまい）の若者組の皆さんが一念発起して企画したものです。

この地区では、毎年夏のこの時期に納涼大会が開かれ、地域の皆さんがとても楽しみにしていたとのこと。残念ながら震災以降途絶えてしまっていたのですが、カリタス釜石でのイベントなど、カリタス釜石の日頃の活動を見ていた只越虎舞の若者組の皆さんが、「負けてらんねえ！」と、自分たちも何かやろう！と動き出したのです。



カリタス釜石は被災地住民のコミュニティ形成支援に力を注いでいますが、このことは、カリタスの日頃の活動の成果とあってよいのでしょうか。住民の方々自身が、みずから動くきっかけになれたらと思うと、これほどうれしいことはありませんでした。



当初は開催場所として駐車場を貸して欲しいということでしたが、被災してテント等の資材も無い中、手探りで企画とのこと。カリタス釜石も同じ町内のご近所さんのよしみで、「それでは共催という形で一緒にやりましょう!」ということに。地元消防団にもご協力いただいて、皆で話し合いながら準備を進めました。

当日は晴天に恵まれて、朝9時から設営開始!

只越虎舞の若者たちとカリタス釜石のスタッフ・ボランティアの手で、テント、お客様席、DJ席、焼きそばやフランクフルトの焼き台、かき氷やわたあめ、冷たい飲物コーナー等々、それと虎舞の屋台が置かれ、お祭りの準備は着々と進み……まだほの明るい午後5時30分。いよいよオープニング・只越虎舞の演舞です!



以前ベースのお披露目で写真をご覧になった方もいらっしゃると思いますが、只越虎舞は黄虎だけでなく白虎が舞うのが特徴です。笹竹に噛み付きながら勇壮に舞う虎にたくさんの住民さんたちが見入っていました。

それから、釜石高校空手部の型演舞。今年はインターハイに出場したという男子生徒、女子生徒たちが見事な型を披露し、さらにコーチを務めている虎舞の若者組の青年が飛び入りで型を披露するというサプライズもありました。

途中、土砂降りの雨に降られたりもしましたが、エンディングは只越虎舞再び……そして花火が上がる頃には不思議と雨もあがりつつあったのです。

珍しい白虎も登場!



多くの方に楽しんでいただけたお祭りとなりました。

米川ベース「夕涼みバーベキュー」に参加して

仙台教区サポートセンター 小野 武

去る8月19日に、米川(南三陸)ベースで恒例となっている「夕涼みバーベキュー」が、開催されました。

ベースのある米川一區集会所の広場に、約80名の方が参加して下さり、賑やかに行われました。

米川ベースは、南三陸と気仙沼の両被災地で活動するのに地理的に便利な米川地域にあります。内陸部にあるため、今回の津波による直接的な被害がなく、支援活動そのもので地区の人と接する機会が少ないことから、ベースの活動への理解とご協力をいただくために、地区の住民の方を招待して地域交流を図ることを目的として、「夕涼みバーベキュー」が行われています。



ボランティア活動だけでなく、バーベキューでも力を発揮して下さったボランティアさん

地元町内から会長さんや区長さんはじめ多くの方が参加してくださいました。町内会長さんは、あいさつで「地元にもなかなか復興支援活動に携わることができないのに、遠くから来て下さって感謝している」と話されました。町内の方は、私たちのことを「カリタスさん」と親しみを込めて呼んでくださいます。運動会等地域のイベントにも参加させてもらっているの、顔なじみの方が増えています。私もこの「夕涼みバーベキュー」は3回目の参加になるので、「初めまして」と挨拶するよりも、「いつも、お世話になっています」とあいさつすることのほうが多くなりました。

バーベキューの食材は、定番の焼肉、焼き鳥、焼きそばの他に南三陸ならではの新鮮なホタテ、そして蒸しホヤが振舞われました。ホタテは、甘味があり鮮度の良さを感じました。私は初めて蒸しホヤを食べましたが、酒の肴に絶好だと思いました。

焼き方を担当したスタッフやボランティアの方は、熱い炭火の中で大忙しで気の毒でしたが、そんな中でも、威勢の良い掛け声でこの集いを盛り上げてくださっていました。

この集いの合間に、広島の高校生を引率して来た先生とお話させていただきました。「学生の時に、学校では学ぶことができないこの被災地での活動体験が、後々の貴重な宝となって欲しい」と高校生の将来に希望を馳せながら話してくださいました。また、彼らは、活動を通じて親密な友達関係ができるようです。

農家で、漢方薬せり科のトウキ(当帰)や朝鮮ニンジンを作られている方は、「とても助かっているの、感謝のため入谷地区から来た」と話しておられました。

南三陸ボランティアセンターの方は、「昨年も招待されたけど遠慮してしまった。今回参加して、とても和気あいあいとした集まりで楽しかった」と話されました。その言葉に、米川ベースのスタッフの一人は、「ボランティアセンターの方がいつも笑顔で接して下さるので、活動しやすいのです」と感謝の言葉を返していました。

今回は、漁業の生産組合や林野庁の方など、幅広い関係者にご参加いただき、地域に根差した活動を、米川ベース長の千葉道生さんをはじめスタッフがボランティアの皆さんと展開していることが感じられました。



花火を楽しむボランティアの高校生たち



バーベキュー参加者みんなで記念撮影！

近隣ベースの石巻や釜石ベースのスタッフも手伝いに駆け付け、この「夕涼みバーベキュー」を盛り上げてくださいました。

最後に、町内の方は、「9月6日に行われる米川地区対抗運動会に若い方が参加して盛り上げて欲しい」と言われ、みんなの笑顔と拍手のうちに、この集いが終わりました。

*9月6日(日)に予定され、町内の人にも楽しみにしていた年1回の「大運動会」は大雨のため、残念ながら、取りやめとなりました。米川ベースの関係者も、その決定を聞き、「最初は最下位の10位からスタートして、参加する年ごとに、1つずつ順位をあげていたのに、残念！」と感想を漏らしていました。

昨年の運動会の様子



末広町復興祭

カリタス石巻ベース 中村 愛

8月23日(日)、第4回末広町復興祭がおこなわれました。昨年度は、「玉コン」と「フランクフルト」のコーナーを担当して、お祭りに参加しました。今年度は、話し合いの中で、人数が不足していて大変だった部分を補う意味で、コーナーを受け持たずにお祭りのお手伝いに参加することになりました。

前日に雨が降り、天気が心配でしたが、当日は曇り。雨上がりということもあり、会場がどろどろだったため、12時の会場設営開始にあわせて、全員長靴を履いてベースを出発しました。

会場に着くと早速作業に取り掛かりました。設置する場所の確認から始まり、机やイス並べ、受付の飾りつけ、ゴミ箱の設置など。話し合いの時には気付かなかった足りない所を補いながら会場設営を行いました。



ひと段落ついたら次は、食べ物の調理です。昨年は「焼き方の人数が足りなかった」と反省があり、今年は焼き方のお手伝いに入りました。フランクフルト、焼きそばを交代しながら、町内の方々と一緒に作っていました。

調理途中でお祭り開始の時間になり、待っていたお客さんたちが食券を持って来られました。その時もカリタスのメンバーが、素早く品物と交換しました。その際、あるお客様が、「若い力があるっていいね。ありがとう」と声を掛けて立ち去って行かれました。

お祭りのイベントも様々。スイカ割、ラムネ早飲み競争、とすけ(紐を引っ張ってとるくじ引き)、景品釣り、カラオケ大会、花火など。それぞれの担当者が工夫を凝らしてお祭りを盛り上げていました。今回、カリタスはカラオケの司会をお手伝いしました。

楽しい時間もあっという間に過ぎ、残るは後片付け。残った方々と一緒に片づけて会場を後にしました。

お祭りの開催にあたり、ベースに送っていただいた物資の一部を提供させていただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。



景品釣りは、大盛り上がり♪

今回のお祭りを通して感じたことは、町内の方々の参加が多くなってきたことです。お祭り準備の前段階として6月と8月に草取りを行ったのですが、今年の参加人数は今までで一番多かったそうです。お祭りの参加人数も昨年よりも多かった気がします。

来年も復興祭を町内の方々と一緒に取り組めたらいいなと思ったお祭りでした。



7月31日、8月1日
石巻川開き祭り
← 灯籠流しで使用する灯籠の組み立て作業のお手伝いをしました。1日は、町内会の皆さんと「大漁踊り」に参加しました。

